

1. 基本方針

基本構想時の問題点を整理し、本計画における施設づくりの基本方針を以下のとおり定める。

①多世代・国際交流が図られる施設づくり

スポーツ大会をはじめ、会議、展示会、集会などのコンベンションの開催によって、多世代交流や国際交流を行える環境をつくる。

②「観るスポーツ」の機会を充実させる施設づくり

日本トップレベルの試合を観戦することで、スポーツの良さや楽しさを実感させ、スポーツへの関心を高めることができる施設をつくる。

③防災施設としての機能を充実させる施設づくり

災害活動拠点施設として、救援物資の搬入など防災施設の機能を備えた施設をつくる。

沖縄の中心から世界に羽ばたく、
熱気と興奮をみんなで創りあげるアリーナ

2. 求められる施設について

①交流施設として

多様な文化が混在する特色を活かし、異文化交流などの各種交流や相互理解が図られる施設づくりが必要となる。

- 1) 市民が利用可能な施設とする。
- 2) 基地内外の交流を図れる施設とする。

②地域振興施設として

各プロスポーツの試合やホームタウン表明等、今後関係者が本市を訪れることで新たな経済効果が期待できる。

- 1) バasketボールをはじめとするスポーツ興行を想定した施設とする。
- 2) コンサートなどの他イベントも想定した施設とする。

③防災施設として

様々な自然災害や航空機事故に伴う災害が想定されることから、市民や米軍人・軍属などの避難場所として、位置づける。

- 1) 各種災害を想定した施設とする。
- 2) 災害時に他施設と連携を図れる施設とする。



3. 配置・動線計画について

①交通手段及び駐車場の検討

当公園への交通手段としては車が大部分を占め、次にバス・タクシーなどの公共交通機関となっており、本計画においても本体アリーナと連動する付帯整備施設としての駐車場計画が必要である。

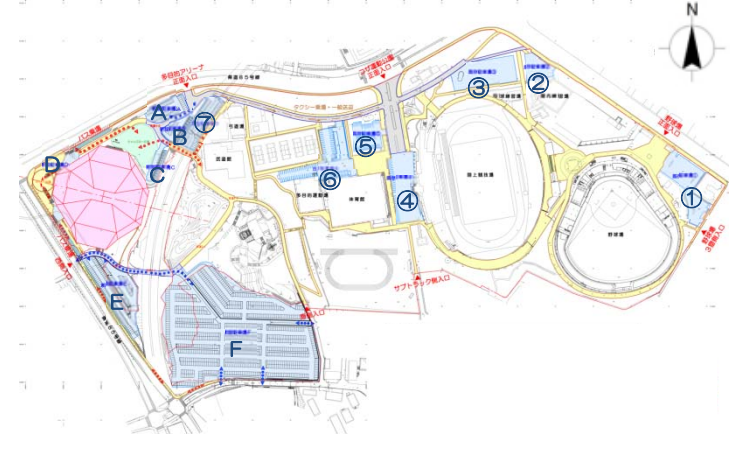
②駐車場計画に対する留意事項

現状において、当公園の既存駐車場は数が不足しており、車両進入及び退出がスムーズに行えないため渋滞を巻き起こしていると考えられる。

今回の駐車場計画においては、明確な駐車場配置とすると共にシンプルな動線構成を行うものとする。

③外構計画

敷地内にはイベント時の搬出入に使用する車路を設け、様々なイベントの設営に配慮した計画とする。



駐車台数集計		既存駐車場		新規駐車場	
新設	普通車用	大型車用	車いす用	計	計
A	50	-	-	50	① 86
B	13	-	11	24	② 47
C	-	-	12	12	③ 103
D	32	-	32	32	④ 109
E	128	-	128	128	⑤ 90
F	849	-	849	849	⑥ 113
計	1,072	-	23	1,095	⑦ 35
合計					計 543

- 車道
- 歩道
- 緑地
- 駐車場
- 人の動線
- 車の動線
- バス通路
- バス乗場

■配置・動線計画

4. 施設の考え方

①市民と基地内外の方が利用しやすく、交流の拠点となる施設

交流拠点として、多世代の交流や基地との連携による国際交流が行える施設とする。また、サブアリーナを多目的に利用できる計画とすることで、集会や国際スポーツイベントを開催できるなど、地域の様々な文化活動やスポーツ活動に利用できる施設とする。外部には広場を活用した賑わいイベントを行えるようにすることで、施設の内外で交流を深めることのできる施設とする。

②スポーツ興行やコンサートなどのイベントに利用しやすく、地域振興の拠点となる施設

日本トップクラスのプロスポーツやミュージシャンによるコンサートなど、ライブエンターテインメント性を演出する空間の臨場感と観客との一体感のあるアリーナを計画する。

駐車場はアリーナに近接して計画し、市内外から集まった人々が利用しやすい施設とする。また、主催者、利用者が利用しやすい施設を計画することで、様々なイベントを誘致し、地域に親しまれる新たなシンボルとなる拠点施設とする。



■交流のイメージ

③災害時に災害活動拠点施設、避難施設として機能する施設

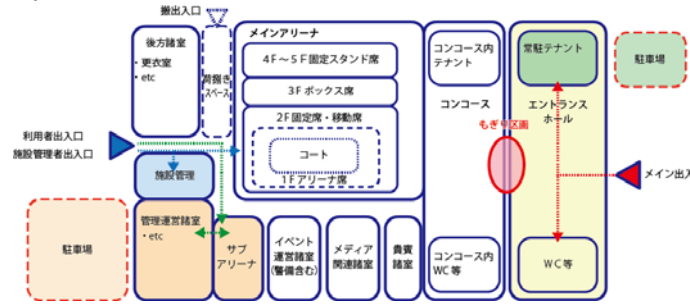
災害活動拠点施設として、有事の際には広域避難場所内の避難施設と連携を図りやすい施設とする。また、避難所としてだけでなく、救援物資の保管・分別・供給できる機能を備えた施設とする。

5. 導入機能・施設の検討及び設備の考え方

①様々な活動に利用できる施設機能

年間活動時の施設イメージとして、エンタランスホールを365日開放し、テナントを利用できる計画とする。サブアリーナは市民が各種イベントの準備や交流時に利用できるようにする。

その他、各種イベントや地域振興、防災施設としても活用できる施設とする。



■年間活動時の施設イメージ

②電気設備について

災害活動拠点とエンターテインメントアリーナ機能の2つの役割を果たすため、『信頼性』、『安全性』、『環境性』、『維持管理性』、『事業性』に留意した、電気設備計画を行う。

- 1) 信頼性「災害時の対応が可能なシステム」
- 2) 安全性「安全で人にやさしいシステム」
- 3) 環境性「自然環境にやさしいシステム」
- 4) 維持管理性「維持管理の容易なシステム、経済性の高いシステム」
- 5) 事業性「イベント集客効果のあるエンターテインメントシステム」

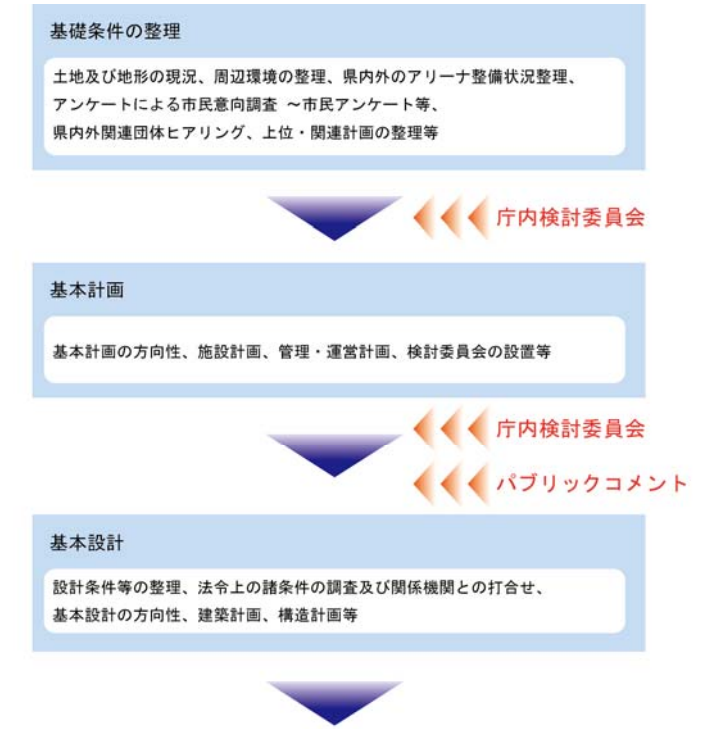
③機械設備について

エンターテインメントアリーナと災害時避難拠点機能の2つの役割を果たすため、『信頼性』、『安全性』、『環境性』、『維持管理性』に留意した、機械設備計画を行う。

- 1) 信頼性「災害時の対応が可能なシステム」
- 2) 安全性「安全で人にやさしいシステム」
- 3) 環境性「自然環境にやさしいシステム」
- 4) 維持管理性「維持管理の容易なシステム、経済性の高いシステム」

6. 業務フロー・建物概要

基礎条件の整理、関連団体へのヒアリング、庁内検討委員会の設置などを行い、全体計画の策定を行った。業務フローは下記のとおりである。



(仮称) 沖縄市多目的アリーナ施設等整備全体計画の作成

■全体計画調査の業務フロー

項目	内容
階数	地上5階
付帯施設	サブアリーナ等
観客席数(仮設席含む)	10,000席以上

